

# 海と緑とロマンの町 やすうら





# 安浦町へのアクセス



## 自動車

広島～安浦	約60分 <sup>※1</sup>
呉～安浦	約45分
東広島～安浦	約40分
竹原～安浦	約30分
高屋JCT～馬木IC～安浦	約50分
河内IC～竹原～安浦	約50分

## JR呉線

広島駅～安浦駅	約75分
呉駅～安浦駅	約30分
三原駅～安浦駅	約50分
竹原駅～安浦駅	約25分

※1 海田大橋～熊野経由利用の場合。



# 安浦を満喫!



- |  |       |  |         |
|--|-------|--|---------|
|  | 朝市    |  | 花       |
|  | 名所・史跡 |  | 景色・眺望   |
|  | 名木・名樹 |  | 遊ぶ・スポーツ |
|  | 海・生物  |  | 八十八カ所巡り |

安  
YASU

浦  
URA

町  
CHOU

呉市の東に位置し  
海と山に囲まれた  
緑とロマンの町

ヒロシマケン  
フレッシュ

# 三津口地区



野路山 伊音城

弘法寺

- ご本尊は弘法大師。
- 本尊弘法大師は25年ごとに開帳されます。
- 車で行くコースと徒歩で八十八番札所を巡るコースがあります。(13・14分)
- 瀬戸内海国立公園としての眺望は絶景。
- 山伏の行「火渡りの式」が毎年10月の第3日曜日の弘法大師の命日に供養祈願祭が行われ、多くの人にぎわいます。



↑弘法寺の梵鐘(呉市指定有形文化財)

梵鐘の銘によると、宝暦4年(1754年)に願主 中切村庄屋矢田部勤助、本願主 高野山實相院谷奥之坊龍泉院とあり、梵鐘の功徳を説く銘文も入っています。先の大戦の金属類回収令から供出を免れた本町最古の梵鐘。総高100cm(竜頭17cm、胴高83cm)、口径57cm



↑つららになった「玉すだれの滝」

野呂山で唯一の滝。飛岩の真下にあリ、高さ20mの巨岩に自然が作り上げた造形の頂上より、すだれのように落ちる事からこの名称がつけました。冬季は滝一面がつららで覆われる氷の芸術は感動です。



←弘法寺奥の院岩屋(呉市指定有形文化財)

弘法大師が修行された岩窟です。本堂の奥にあるご本尊は通常閉まっていますが、御開帳時のみ拝見できます。



←⑩御典医松井俊卓旧宅(呉市指定有形文化財)

松井家は代々医業を以て地域に貢献し、中でも4代 俊卓は広島藩の御典医として名を成していました。松井邸は、庭園も含め江戸後期の医家住館の構えが、ほとんど当時そのままに保存されています。

→⑪神山神社

三津口創村の際に、五穀豊穡と悪疫退散と村民の安穏を祈念して創建されたと伝えられています。9月祭の權伝馬(15分)は一見の価値があります。



←⑫瑞雲寺

往古は禅宗で浄光庵山にありましたが、焼失にあい村の住人山路平左衛門の居宅北側に移し、慶長11年(1606)僧丹拳に至り浄土宗に改宗しました。本尊は定朝風の阿彌陀如来像といわれ、気品ある姿は拝する者の心を打ちます。



瑞雲寺の当麻曼荼羅(呉市指定有形文化財)→

奈良当麻寺にある仏教が説く死後の世界の一つ、極楽浄土の光景を描いた国宝の当麻曼荼羅を模写しています。縦285cm×横239cmの大作。元禄2年(1689)と明治31年(1898)に表具の修復がされています。



←瑞雲寺の仏涅槃図(呉市指定有形文化財)

釈迦がクシナガラ城郊外の沙羅双樹の間に入滅する様子が描かれています。縦288cm×横197cmの大作で元禄2年(1689)に奉納されています。



曼荼羅と仏涅槃図は毎年、お彼岸に瑞雲寺で公開。(仏涅槃図は春のみ)



# 安浦町の珍風景・風物

安浦町には自然・人造の珍風景が所々にあり、学術的に貴重なものもあります。そんな安浦の風景を巡ってみませんか。



**⑨ 野呂川の清流**  
野呂山勤農坂の源流から三津口湾に注ぐ安浦で最大の川です。上流では川遊びや釣りなど楽しめます。  
市原

**① 黒地の浜地層**  
黒地の鼻では泥岩中に紅柱石の針状結晶が見られます。これは、太古の火山活動で火砕流が繰り返して流出したためと考えられています。  
泉市指定天然記念物

**② シロウオ漁**  
野呂川と中畑川が合流するところで行われるシロウオ漁。潮が満ちるとシロウオが上がり仕掛けに入る伝統漁法です。毎年3月から4月まで漁が行われます。

**③ モッコクの連理**  
金箱神社の祠の後方にそびえる大樹は、モッコクと杉の幹が繋がった「連理」と呼ばれる、大変珍しいものです。(グリーンピアせとうち内)

**町内清流のホタル**  
野呂川流域や、その他の河川で、初夏の夜に飛び交う小さな光は人々の心を癒してくれます。

**三津口湾の海ホタル**  
三津口湾に現れる発光海中生物。太古から生きぬいた彼らの小さな光は海人達に日頃の労を忘れさせてくれるといひます。

**④ 亀石**  
小日之浦にある、その名のとおりの亀石は、断崖の下にあり、船からしか見ることができません。

**⑤ 亀山八幡神社の乳飲みみ犬**  
全国でも珍しい子持ちのコマ犬。授乳中の子犬がなんととも愛らしい。一見の価値あり!

**⑦ 大重岩**  
平らで大きな岩を規則正しく積み重ねたように見えることから「大重岩」と呼びます。長い年月をかけ風に削られてきた、板状(ばんじょう)節理(せつり)の代表的な岩です。

**ハクセンシオマネキ**  
カニの一種。オスの片方の鉗脚が極端に大きく、白っぽい体色が特徴。希少種。河口の干潟に広く生息(日之浦・塩谷)しています。

**⑧ 小重岩**  
大重岩と同じく大自然の節理によってできた岩です。岩全体の周囲は大重岩より大きく、見応えがあります。

**⑥ アマモと杭打ちかき棚**  
海底に生える植物のため、通常は見えませんが、大潮の干潮時には海面に現れ、水面がアマモの絨毯で敷き詰められる様子は圧巻です。

## コンクリート船「武智丸」

- 所在地：呉市安浦町三津口港内
- アクセス：JR安浦駅から東へ約1.4km 徒歩20分
- 駐車場：安浦漁港内約20台



三津口港の防波堤として設置されている2艘の「武智丸」は、太平洋戦争末期の昭和19(1944)年、鋼材不足を補うため、兵庫県高砂市の造船所で建造されたコンクリートの船です。終戦時まで軍事物資の輸送にあたりましたが、終戦後の昭和24(1949)年、地元漁業者の要望により防波堤として設置されて以来、海の守り神として親しまれています。安浦の武智丸は、コンクリート船の原形を留めている全国的にも貴重なもので、数少ない戦争の語り部になっています。

## 南薫造記念館「安浦歴史民俗資料館」

- 所在地：呉市安浦町内海南2-13-10
- 開館時間：9:00~16:30
- 入館料：一般150円(120円)・高校生90円(70円)・小中学生60円(40円)※( )は20人以上の団体料金
- 休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
- アクセス：JR安浦駅から約900m、徒歩15分駐車場8台
- 問い合わせ先：☎0823-84-6421



近代日本洋画家 南薫造の生家。江戸後期の建築といわれる母屋とアトリエを改修し、特別展示室と郷土の資料展示室を一般公開しています。館内は、画伯の遺作をはじめ、使用した画材、愛用の品々のほか、南家に伝わる古文書や生活用具、農具など展示されています。当時の暮らしぶりや南薫造の人柄をより深く触れることができます。



## 安浦シーサイドリゾート

# グリーンピアせとうち

春には穏やかな海を花たちが彩り、夏は歓声が上がるビーチが華やか。山海の幸に恵まれる秋、温暖な気候に心地よい冬—四季の表情を満喫するグリーンピアせとうちは、瀬戸内海に面した広大な敷地にレジャーやお湯を満喫できる設備が整ったシーサイドリゾートです。

☎(0823) 84-6622



↑露天風呂

お湯都びあでは芝居や食事を楽しめる大広間、休憩などに利用できる小部屋など各種施設も整っており、お風呂の後もゆったりとくつろげます。



↑大浴場



←洋室ツイン

瀬戸内海を見下ろす客室で思い出に残るひとときを。



浪なみのおどを  
心にかけて  
明あかすかな  
若浅まもる月の  
影を友にして  
西行

グリーンピアせとうちの一角にある高飛浦で一夜を明かした際、晩秋の美しい月に感銘して歌を読んだことに因んで西行庵を建てて西行法師を偲んでおります。

↓親子で楽しめるゴーカート



ゴーカートやグラウンドゴルフ、テニスコートなどスポーツ施設やレクリエーション施設も充実しています。

↓テニスコート



季節ごとの味わいを大切に創作料理をお楽しみください。

←懐石料理



JR呉線安浦駅から無料送迎バスを運行しています。



毎年6月に三津口湾内の無人島・柏島で行われる柏島神社大祭では、大漁旗をなびかせ、華やかに飾られた引き舟、御座舟、供舟が笛や太鼓を鳴らし湾内を航行します。



安浦夏祭りは毎年8月14日に行われ、今では安浦夏の風物詩となっています。多彩なステージイベント、大抽選会、約2,000発の海上打ち上げ花火は人気の一つです。



夏祭り

安浦町は古式豊かな伝統行事と、地域が力を合わせ演出するイベントが続いています。活気と心の豊かさが溢れみんなが楽しくあるように！



月、商工会・JA・漁協などが中えとこ祭りが行われます。安浦品「海の幸・山の幸」の品々がずび賑わいを見せます。



9月

勇壮な「權伝馬」と「ハイヤメヤー」のかけ声とともに、神輿が練り歩く神山神社のお祭りは一見の価値あります。



1月 第2週～2月

毎年1月～2月に各地域で神明祭(とんど)が行われます。「とんど」に火を放ち、その火で餅を焼いて食べ、厄落としをします。



来ん菜・見ん菜・食ん菜をテーマに、毎年11月に催されます。地元的新鲜野菜販売をはじめ、ステージ、体験イベントなど秋の収穫を堪能できます。



境内では稚児の舞や神楽が行われ、翌日は随兵さんを先頭に行列が町中を練り歩きます。



お祓いを受けた鬼や笛・太鼓衆の後に子供御輿と奴衆が神社から御旅所まで行列し、各地区から大御輿が集結します。太鼓の競演と巫女の舞が見所です。



毎年2月の第4日曜日にグリーンチで開催される食の祭典。かき巻の中でも安浦のかきは、アマリブリッとした食感が特徴です。